

WHO 戦略技術諮問委員会 (STAG 会議) 報告

結核予防会結核研究所

所長 加藤 誠也

はじめに

世界保健機関 (WHO) の結核対策戦略技術委員会 (Strategic Technical Advisory Group: STAG) は、結核対策に関わる国際機関、関係国の担当者、関係団体、学術機関等の専門家による対策方針に関する諮問を行う委員会であり、会議は年1回開催される。例年はジュネーブのWHO本部であるが、今回は国連総会における結核に関する高官級会合 (United Nations General High level Meeting; UNHLM) の市民社会ヒアリングに引き続いて6月7~8日にニューヨークで開催された。これまで結核予防会はオブザーバーとして参加していたが、今回から筆者が3年の任期で正式メンバーに任命された。

今回は、14年間 WHO本部の結核対策部長を務めた Dr. Mario Raviglione に代わって、ロシア出身の Dr. Tereza Kasaeva が就任して初めての STAG 会議であった。

会議における議論

最初に **WHO General Programme of Work (GPW)** とそれに基づく WHO の改革について報告と議論があった。2017年7月に WHO の事務総長に就任した Dr. Tedros A. Ghebreyesus は GPW13 で 2019 年以降の活動の方向性を示した。この GPW13 で感染症対策の中で、結核は HIV/AIDS、マラリア、ウイルス性肝炎などとともに高い優先度が設定された。

続いて、WHO の地域事務所からの **結核終息戦略の進行状況報告** があった。地域によって罹患状況や対策に特徴があった。

結核の効果測定 (疫学) に関する主要な課題として、HIV、多剤耐性を含む罹患状況の正確な把握、国レベルでの報告や人口動態統計の強化、有病率調査・薬剤耐性調査・死亡調査・医療費調査の実施、結核と潜在性結核感染症の推計方法の検討、国レベルのデータ活用について議論された。

患者発見と治療 に関しては、世界の推定患者の4割が発見されず、適切な治療を受けていない。多くの国際機関が患者発見強化のための戦略を開始したが、関係団体の連携・調整が必要になっている。例えばフィ

リピンでは連携調整会議が開催され、100以上の技術支援プロジェクトの中から56のプロジェクトは高い優先度と認定された。

民間機関の治療と予防への活用 は様々な試みがなされてきたが、結核終息戦略の達成のために必要な強化・拡大の道筋が議論された。

ロシアにおける閣僚級会議から UNHLM までの主旨や経緯に関する説明と議論があった。その中で、新しい概念である **多分野にわたる説明責任の枠組み (Multisectoral Accountability Framework)** は、WHO の関係会議等で、目標設定、活動の実施、活動状況の監視、見直し過程を経て、新たな目標設定に至るサイクルであるとされ、指標に関する議論も概ね終わっている。課題となっているのは見直し過程であった。筆者は、日本における特定感染症予防指針の策定過程で厚生科学審議会の意見を聞くことが規定されていること、都道府県は感染症予防計画を策定すること、予防指針には方針や数値目標等が設定されて、5年毎に見直し規定されており、この枠組みができていないことを発表した。

さらに、今後の活動に重要な役割を期待されている **市民社会の関与** に関する報告と促進する方策と目標達成のために極めて重要な **研究開発を加速させる** ために必要な政治的な盛り上げりを醸成する戦略について議論があった。

最後に、これらの議論を元に STAG としての勧告について討議され、最終案がメンバーに回覧され、決定されることになっている。🐼



会議の様子 (中央左 (男性) は委員長 Abubakar 教授、中央右 (女性) は kasaeva 部長)